

掲げていましたが、それ以外にも今後の人生に活かせる経験ができました。これだけ多くの経験をすることができたのはこの留学に関わっていただいた方々のおかげです。両親や

ホストファミリー、このような機会を与えて下さった宇治市の皆様への感謝の心を決して忘れず、この経験を次世代へと伝えていけるように、今後がんばりたいと思います。

## 「日本語支援ボランティア養成講座」を終えて

宇治市国際親善協会運営委員 伊勢村 紀久子

グローバルな社会が極めて自然となった現在、宇治市の外国籍住民は、オールドカマー、ニューカマーを含めて2,613人（法務省2013年12月末、在留資格、特別永住、日本人配偶者、中国残留帰国者関係、留学生、研修生など）、短期の観光ビザで日本語学習に来る人々を含めると、その数はさらに大きくなります。地球市民の人権が守られ、心地よく安心して住める地域社会を創造するために、宇治には日本語の習得が必要な人々への学習支援をするボランティアグループがいくつかあります。親善協会では、それらのグループへの支援のために、昨年9月以降10回に亘って「日本語支援ボランティア養成講座」を実施しました。定員20名のところ、市民の関心が大きく申込開始日の午前中で定員に達しました。

講座終了後、宇治公民館と京都大学黄檗キャンパス内で活動をしている宇治国際交流クラブ内の日本語教室には、5名の受講終了者が参加、内2名の方が既に2～3カ月の研修期間を経て、現在ボランティアとして外国の人々の日本語学習の支援をしています。また菟道ふれあいセンターを拠点として、夜に活動をしているスピーク・サロンには、終了者が1人と講座に漏れた方が2人、既にボランティアとして学習者さんに日本語支援をされています。4月からあと2人の受講終了者さんが、スピーク・サロンに参加を希望されています。

国の流れの中では、文部科学省がH26年度から「スーパーグローバル大学（SGU）創成支



日本語教室研修会講演

援」事業を開始し、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し、我が国の大学の国際化を牽引する大学が選定され、次世代を担う若者たちのグローバルな育成に拍車がかかっています。また法務省では「第6次出入国管理政策懇談会」が開催され、外国の人々の受け入れ増に伴う社会的コストの負担や、治安上の問題なども議論されていますが、閣議決定に



においては、外国人の積極的受け入れの基本方針が確認されています。

このような社会的背景に伴い、身近な地域社会の中では、ここかしこに多くの外国の人々の姿を見ることになるでしょう。日本語支援ボランティア養成講座を通じて、親善協会の役割が今後益々重要になってきます。



スピーク・サロン「ネパール料理教室」



スピーク・サロン「クリスマスパーティー」



### 会員募集と会費納入のお願い

当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。会の運営活動を活発に行うため、皆様方の会費納入をよろしくお願ひします。

平成26年度の会費納入がまだの方は会費納入をお願いします。

併せて、会員の募集をしています。皆様方のご協力をお願いします。

年会費 個人会員 2,000円 団体会員 5,000円 法人会員 10,000円

#### 【振込先】

京都銀行宇治支店普通預金…678459 受取人は「宇治市国際親善協会」です。

### 雑観雑感

先日20年振りに台湾「故宮博物院」を見学する機会があった。ここには696,000個以上に及び古代中国の美術品が貯蔵されているらしく全てを見るには10年以上かかるとも言われる。中でも「翠玉白菜」は最も有名な展示品で人並みに押されゆっくりと見学など出来ない状況であった。

この作品は翡翠の自然石、白色から緑色に変わる部分を見事に使い分け、一石で仕上げられた作品であるが、白菜には「バッタとキリギリス」が彫り込まれている。制作者はこの「イナゴとキリギリス」に何の役割を持たせようとしたのであろうか？

先日のガイドは「作者の娘が王室に嫁入りする時の持参品として作成した物で「バッタとキリギリス」は多産系昆虫であり、娘が子宝に恵まれ、繁栄することを願って作成したものとの説明であった。

前回見学時のガイドは「王様が地方視察をした際、地方の農民が王様に献上した物で「バッタとキリギリス」は「表面上な何もなく順調に見える地方政治であるが、既に害虫が当地の政治を虫食い始めていることにお気付き下さい」の意を込めて献上したとの説明を受けた。

故宮関連の本を見ると前者の説明がなされているものが多く、後者の説明は見当たらないが、先のガイドが「賄賂とか裏金」が横行する社会を批判して自説を説明したのであれば、これも見事な作品に思える。(H.I)